

水産研だより

【今回の内容】

- 1 外国人研修生を受け入れました
- 2 早期遡上アユ親魚養成の低密度管理と循環槽設置効果
- 3 マス類の採卵作業や受精卵管理の暑さ対策について



早期遡上アユ

1 外国人研修生を受け入れました

世界的な漁獲量の低迷を背景に、低コストかつ簡便に実施可能な小規模内水面養殖が、動物性タンパク質の供給源として注目を集めています。独立行政法人国際協力機構(JICA)は、東南アジアやアフリカ地域において、農民間での普及を通じた小規模内水面養殖の拡大を目的とした研修を実施しています。

このたび、2025年6月から7月にかけて国内で実施されたJICA小規模内水面養殖研修の一環として、6月9日から13日の5日間、当研究所において研修を行いました。参加者は、ウズベキスタン、コートジボワール、ソロモン諸島、ナウル、パプアニューギニア、レソトの6カ国から、政府の水産関係職員、研究員、普及員など計7名が参加しました。なお、ナウルおよびレソトからの受け入れは、岐阜県内水面漁業研修センターの開所以来初めてとなります。これにより、当センターでの受け入れ実績は、延べ44カ国・225名となりました。



研修生と記念写真

研修では、岐阜県水産研究所の業務紹介や県内水産業の概要、世界農業遺産「清流長良川の鮎」に関する講義、魚病診断におけるDNA抽出およびPCR検査、水質検査キットを用いた水質管理実習、ナマズ養殖技術に関する講義および精子培養実習を実施しました。さらに、県内のナマズ養殖施設やアユの種苗生産施設の視察も行いました。



研究所の業務紹介



実習風景

研修生の出身国ごとに水産業を取り巻く環境や対象魚種は異なりますが、各自が自国での普及に活かせる知識の習得に努めていました。最終日には総合討議を行い、各講義や視察に関する質疑応答に加え、母国の内水面漁業が抱える課題に対して、研修内容をどのように活用するかについて活発な議論が交わされました。

2 早期遡上アユ親魚養成の低密度管理と循環槽設置効果

水産研究所と(一財)岐阜県魚苗センターでは、平成29年度から早期遡上アユを親魚とした種苗生産に取り組んでいます。

早期遡上アユとは、4月までの早い時期に川を遡上する天然アユを指します。このアユは大型に成長しやすいため、アユ漁業を支える重要な資源ですが、初期から漁獲されるため、産卵期まで生き残る割合が低い、地球温暖化によりアユの産卵期自体が遅れ、早期に遡上できるアユが減る、など資源の悪化の可能性が指摘されています。そこで、早期遡上アユを長良川河口堰で捕獲し、魚苗センターの親魚養成棟にて養成・採卵を行う実証事業を実施しています。

本年度は、これまで実施してこなかった以下の2点について検証を行っています。

① 低密度管理

早期遡上アユを、飼育数に差を設けた5つの飼育池で飼育し、適切な密度の検証を行っています。9月上旬時点では、低密度区の方が大型化し、減耗も少ないことが判明しています。

② 循環槽の設置

試験区の1つに循環槽を設置し、「半かけ流し」による飼育管理を実施しています。現在までに、感染症による減耗を大幅に抑えることができています。

今後は、採卵まで適切な飼育管理を継続するとともに、より効率的な飼育管理手法の確立を目指し、事業化に向けて研究を進めてまいります。



飼育水槽に設置した循環槽

(試験研究部 松井)

3 マス類の採卵作業や受精卵管理の暑さ対策について

ここ数年、マス類の種卵生産している養殖業者の方から、秋になっても暑い日が多いためか、以前と同じように採卵・受精しても発眼卵の成績が良くないという声を聴くことが増えてきました。

成績を向上させるため、採卵作業の際には気温が低い時間帯に直射日光の当たらない屋内で作業するとともに、卵や精子はできるだけ涼しい場所に置き、採卵採精後はできるだけ早く受精作業を行うよう心掛けてください。

また、気温が高い時は、採卵用の等張液には水を入れて凍らせたペットボトル(ペットボトル氷)を入れて冷却するとともに、採精用の人工精漿は冷蔵庫で冷やして、採卵作業や受精作業に使うようにしてください。

また、当所では、受精卵管理に冷却した飼育水を循環して使用することで発眼率が向上しています。この冷却循環システムに興味のある方はご相談ください。



ペットボトル氷を入れた等張液



冷却循環システム

(下呂支所 原)